

分科会活動3

地域研究分科会報告

(谷岡 潔 ソロモンプロジェクトチーム長)



1. ソロモンとの出会い

JECKとソロモンとの出会いは、高濱清会員（前ソロモン諸島国臨時代理大使）を囲んでのソロモン研究会、そして、マライタ州知事ルーベン・モリ氏が昨9月JICA横浜のJECKデスクを訪れたことに始まる。

これを受けて、現地を見ることが先決との判断から、谷岡及び石井両会員が今年3月ソロモン諸島国、ガダルカナル島及びマライタ島を訪問した。

2. ソロモンプロジェクトチームの発足・・・その基本軸と目指すところ

4月のJECK第四回総会でソロモン調査団出張報告を行った。

同総会では“活動分科会”が討議され、その一つとして“ソロモン分科会”設置が承認された。右に従い、4月26日第1回ソロモンプロジェクトチームの会合を持った。

打ち合わせ事項は；

- (1) 名称を“ソロモンプロジェクトチーム”とする。
- (2) チームメンバーは；当日出席のメンバーで先ずスタートし、次回以降出席者を、本人了承の下に、逐次加えていく。また、JECKメンバー以外の参画も可とする。
- (3) チーム長：谷岡潔、並びに、副チーム長：石井信行及び谷保茂樹とする。
- (4) 活動目標並びに基本軸と支援セクター；

1) 先ず、“ソロモン・マライタ州 社会・経済開発”に対する、ルーベン・モリ知事より要請を受けた、或いは、JECKから呼びかける、“専門家”としての民間支援を行う。

2) 上記支援活動は、わが国経済援助の基本に沿った、次の基本軸で行う；

- ① マライタ州の‘自助努力’に対する支援。
- ② 内紛が終結し復興期にある、ソロモン国‘平和の構築’及び‘人間の安全保障’に沿った支援。

3) 支援セクターは、マライタ州社会・経済状況と同州政府の意向を勘案して、次のセクターとする。

- (a) 農業, (b) 水産業, (c) 畜産, (d) 林業, (e) 社会インフラ (小規模の; 道路、上下水道、港湾等)、
(f) 社会全般 (保健医療・衛生、教育、IT、等)、(g) 小規模商・工業

4) ルーベン・モリ知事は先ず農業・林業・水産業の振興から始めて、マライタ州の社会・経済開発を図りたいとしている。3月ソロモン調査団現地面談時の発言に加えて、7月万博に来日した際、同知事が持参したJECK宛て書状で、次の申し越しがあつた；

Quote ・ ・ As I have expressed during your brief visit to Malaita this year, Malaita Province will continue to needs experts in all kinds of fields. Those of our most needed experts now are Master Planner, Marketing Expert and a Fisheries Expert. ・ ・ Unquote

3. 先ず活動環境の基盤固めが必要と認識した

(1) 日本側では；

ソロモンにおける白紙からの民間支援活動のスタートに当たり、その方向性の確認のため、外務省経済協力局（政策課、技術協力課、民間援助支援室）、JICAアジア第二部（太平洋チーム）、国内事業部（市民参加協力室連携促進チーム）、JICA横浜等と面談した。その結果、種々貴重なアドバイスを頂戴すると共に、JECKがマライタ州政府をカウンターパートとして、民間支援活動を行うことは、時流にも沿っており、妥当であることが確認された。加えて、日本・ソロモン友好団体、学識経験者、関連業界とも面談し、今後の活動に資する基礎知識の集積、人脈の構築を行った。

(2) ソロモン側では；

3月のソロモン調査団訪問時、日本国大使館、JICA事務所、JICA専門家（国家計画・援助調整省に所属）との面談、に加えて、マライタ州ルーベン・モリ知事と意見交換を行った。更に、愛知万博等に来日した要人、ケマケザ首相、ルーベン・モリ知事、国家計画・援助調整大臣等とも面会して、JECKの存在を認識していただいた。（‘JECK面談記録’参照）

以上一連の日本側並びにソロモン側との実践作業結果、JECKが歩もうとする方向性が妥当であるとの確認と今後の活動環境に対する基盤固めが出来た。

4. キックオフと次の一手

(1) 短期灌漑専門家を派遣、成果を挙げた

‘APSDのJICA民間支援資金に基づく活動から要請を受けて、



現地活動中の白石 康 会員